

じやりみち

原本

……仮設支援情報……



第46号 発行日 97.12.18

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923

E-mail:SHB00846@niftyserve.or.jp

口座番号:01180-6-68556 (郵便振替)

3度目の1月17日で幕を開けた1997年。10月には震災から1000日目を数えた年でもありました。いろんな節目が過ぎゆくごとに、少しずつ風化する震災の記憶。けれども「地震災害は1月17日に終わったのではなく、あれから毎日私たちを責め続けている」(第1回フォーラム「神戸宣言」)のです。

さまざまな課題が積み残されたまま過ぎゆく被災地のこの一年。でも来たるべき未来への新しい動きが、少しずつ育まれてきたのも、この一年だったように思います。なにはともあれ、今年最後の「じやりみち」です。一年間ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。

先月からの事務局の動き

- 11/22(土) 事務局会議
- 11/26(水) 事務局会議/全体会
- 11/29(土) 「まけないぞう」出店
～30(日) (地球環境フェアフリーマーケット・神戸)
- 12/ 1(月) 事務局会議/「もやい」ミーティング
- 12/ 6(土) 事務局会議
- 12/10(水) 全体会
- 12/12(金) 「もやい」ミーティング
- 12/17(水) 全体会
- 12/18(木) 「じやりみち」46号発行
- 12/19(金) 村井くん、
～27(土) 朝鮮民主主義人民共和国訪問
- 12/28(日) 年末年始ふれあい祭り(「もやい」にて)

年末年始の事務局体制

1997年の仕事納めは12月27日、

1998年の仕事始めは1月5日になります。

12月28日から1月4日までは基本的に事務所はお休みです。緊急の連絡のある際は、村井の携帯までお願いします。

030-160-3816(村井携帯)

県発表 仮設世帯なお2万5374

恒久住宅への移行、停滞

県は9日、阪神大震災に伴う仮設住宅の入居状況(12月1日現在)を発表した。11月中に計903世帯が退去したが、依然、被災地内外には2万5374世帯が仮設住宅生活を続けている。

災害復興公営住宅の第4次募集では、仮設住宅から1万6291世帯の応募があったが、既に約6000世帯の落選が決定した。このため県は公営住宅の計画戸数の上乘せ、また神戸市も大規模な再募集の検討を始めているが、公営住宅の建設地と、被災者の希望地との「ミスマッチ」が顕著となっており、恒久住宅への移行は順調とはいえない。

仮設住宅の入居世帯数を市町別にみると、被災地では、神戸市1万7206世帯▽西宮市3351世帯▽尼崎市1500世帯▽芦屋市1058世帯▽宝塚市504世帯▽明石市164世帯▽北淡町119世帯▽一宮町60世帯▽川西市49世帯▽伊丹市29世帯▽津名町29世帯▽三木市27世帯▽五色町4世帯。

被災地外では、加古川市526世帯▽大阪府279世帯▽姫路市259世帯▽高砂市143世帯▽三田市35世帯▽播磨町24世帯▽稲美町8世帯。このほか、大阪府民向けに設置された仮設住宅に44世帯が入居している。

また、11月中の退去数は神戸市の494世帯が最多で、以下、西宮市82世帯▽伊丹市同▽尼崎市63世帯▽大阪府23世帯▽宝塚市22世帯▽明石市22世帯▽姫路市22世帯▽加古川市21世帯——など。

(毎日新聞 12月10日朝刊)

全体会の報告

～11月26日・12月10日・12月17日～

いま、全体会の中で中心的に話し合われているのが、「仮設NGOの今後」について。仮設の現状と今後の課題を予測した上で、どのような活動が必要になってくるのか、また各団体の今後とすりあわせをしながら話し合いを進めています。

前号のじやりみちでも報告させていただきましたが、12/17の全体会で、事務局からの提案を提出いたしました。その案は、まけないぞうを中心にした収益事業と、コーディネートセンターという2本柱の事業案。これについて、各団体がどのように考えるか、また、各団体がどのような協力ができるかについて話し合われました。しかし、まだ来年度の予定が決まっていない団体もあり、この話し合いは来年1月の全体会でもう一度行われる予定です。

第3回 市民とNGOの「防災」国際フォーラム

—1998. 1. 15～17開催—

「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」は震災の年、95年12月に第1回目が開かれました。仮設NGOも過去2回のフォーラムには全面的に企画運営に協力し、3度目の今回も積極的に参加していきます。

今年は「自ら描こう“明日の暮らし”」がテーマです。フォーラム当日の話し合いをもとに「市民がつくる復興計画」を策定し、発表します。

フォーラム当日は、様々なワークショップやフィールドワークを企画しています。ちょっと硬派のものから、味めぐりや体験ツアーまで、多種多様なメニューを考えています。

ふだんの活動からなかなか見ることのできない被災地の一面を、この機会に探してみたいかがでしょう。

フィールドワーク

被災地内の各所を見学したり、実際のボランティア活動を体験したりするフィールドワークを行います。

- ・新居だいじょうぶ?コース
 - ・復興まちづくりコース
 - ・地場産業復興・光と影コース
 - ・緊迫の六甲アイランド物語コース
 - ・これぞ神戸復興の味コース
 - ・仮設入居者とボランティアのつどい
 - ・多文化異文化、ええやんかコース
 - ・西神戸第7仮設住宅ワークショップコース
- ほか、全14コース

またフォーラムの各企画に携わるボランティアの募集も行っています。3年間の活動から見えてきたこと、未来へ向かって語り継ぎたいこと……このフォーラムを通じて、一緒に考え、つくっていきませんか。

(ボランティアスタッフに対しては、昼食費の支給と、無料で宿泊場所を提供します)

エスニック広場

NGO外国人救援ネットが、被災地内に住む様々な国の人によるバザーを企画しています。
(「まけないぞう」の販売も予定しています)

こんなことを企画しています!! (一部)

展示「仕事づくりの現状」 「震災活動記録の展示」

「まけないぞう」を中心とした、被災地の生きがい・仕事づくりに関する展示と、震災発生からこれまでとこれからに関する展示を行います。

「人々の集う広場」というのが、フォーラムという言葉のそもそもの意味。たくさんの一がつながるきっかけとなった被災地の「フォーラム」に、多くの顔ぶれが集まることを願っています。

ワークショップ

16日の午後を中心に、現在被災地で課題とされているテーマや、震災から3年間の活動の中で見えてきた様々な出来事についてのワークショップを行います。

- ・「しごと・働く場」「教育・文化」
- ・「医療・保健・福祉」「住宅の再建」
- ・「まちの再建」の復興計画
- ・ひっこしプロジェクト・県外避難者集会
- ・多文化共生・専門職ボランティア
- ・ボランティア自身の心のケア～ディブリーフィングとは
- ・大震災を検証する～そこから生まれるネットワーク
- ・被災したまちから・被災地内識字学級の現状
- ・人道支援とは?

◆◆「私にとっての震災」写真募集中!!◆◆

フォーラムで行う展示の中で、「私にとっての震災」をテーマとした写真を募集して展示します。写真にメッセージを添えて、フォーラム事務局までお寄せください。

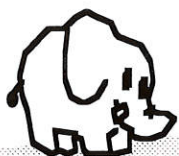
(応募いただいた写真は、原則として返却不可)

フォーラムの詳細・ボランティアの募集・資料の請求などについてのお問い合わせは、

市民とNGOの「防災」国際フォーラム事務局

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 FAX: 078-578-6923



まけないぞう!

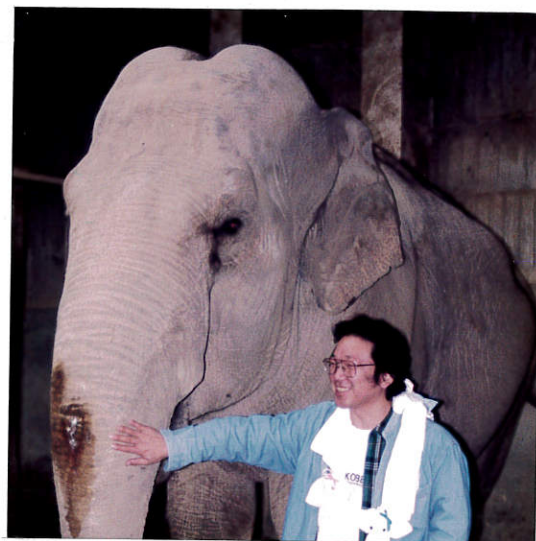


ぞうさんを連れていった話

97年11月29・30日・12月4日、ポートアイランドに「まけないぞう」を売りに行った。お客さんに買ってもらうためのポイントは、一つ一つ手作りのため、顔が違ふということ。作った人によって特徴が出るし、目の位置、鼻の大きさ、顔の大きさ、その他色々……で顔はずいぶん違ってくる。「可愛いぞうさんを連れて帰ってくださいね」というと、女の人はずいぶん一つ一つ手に取って選ぶ。逆に男の人は、こだわらない人が多い。

また、以前なら「これ何?」「飾り?」というような反応だったのが、「新聞見たよ」「テレビでやってたね」と声をかけてくれたり、「家にあるけどもうひとつ買おうわ」と積極的に求めてくださる方が増えているという具合。とーってもうれしい。「まけないぞう」がもっと広がって、いろんな人につながっていきたい。

(仮設NGO事務局 矢島邦恵)



王子動物園のぞうさんも
「まけないぞう」を応援しています!!

(国内最長寿のぞう「諏訪子」と、
「まけないぞう」をまとった村井くん)

「まけないぞう」タオル好評

ボランティア考案商品

「まけないぞう」タオルは、全国から寄せられた支援の新品タオルを、ゾウのマスコットに加工して販売。製作した被災者が制作費を受け取る。

窓口になっているのは、被災地内約三十のボランティア団体でつくる「阪神・淡路大震災『仮設』支援NGO連絡会」(神戸市長田区)。村井雅清・事務局長(四十七)らのアイデアが出発点だった。

今年初めの日本海でのロシアタンカー重油流出事故で、被災地に全国から支援のタオルが数多く寄せられていることを報道で知り、「震災被災地でもタオルの支援を募り、それを加工して販売できないだろうか」と、四月初旬から「一本のタオル運動」をスタート。

当初は、集まったタオルをぞうきんにすることが提案されたが、計画を聞いた兵庫県西宮市内の仮設住宅に住む女性が「マスコット型のタオルにした方がいいので

は」と提案、「まけないぞう」が生まれた。

九月ごろから本格的な製作を始め、現在、仮設住宅住民を含む被災者約二十人が製作に携わっている。一つの製作にかかる時間は、十五分から三十分。販売価格は一個四百円で、うち発送費などをのぞいた百円が製作した被災者に支払われる。これまでバザーなどで約四千個が売れた。

(中略)

村井事務局長は「生きがいの発見につながれば」と話している。

連絡会(078-578-6921)は支援の新品タオルを募集中。なるべく無地を希望している。

(産経新聞 11月19日夕刊)

「まけないぞう」のビデオあります!!

サンテレビの11月4日のニュースで「まけないぞう」が取り上げられました。ビデオに録画してありますので、ご覧になりたい方は事務局までご連絡ください。貸し出しもしています。

♡ 新品のタオルください ♡

《仮設は今…》

垂水区編

新多聞仮設住宅のふれあいセンターで、週1回のふれあい喫茶を始めて2年あまり。620戸ある住宅も住民は段々と減り、今住むのは300世帯を切りました。何処も同じような現実を抱えていると思いますが、世帯数減少の中で自治会の存続が困難になり、9月末に解散。その結果、垂水区はふれあいセンターを閉鎖しました。

ふれあい喫茶も10月の第1週は休んだものの、体調の悪い人のことが気掛かりでした。翌週から初心に戻り、戸別訪問を実施しました。その時に、センターの再開を求める住民の思いが非常に強いことを聞かされ、主催者の私たちが思う以上にふれあい喫茶がほっとできる空間だったことを知りました。

公営住宅の一元募集時期だったにもかかわらず、広報誌が袋も開けられずセンター前に積まれたままになっていました。そういう時期に口コミの情報交換や気晴らしの会話をする場が奪われたことは理不尽なことでした。

ふれあい喫茶のある水曜日だけでも鍵の貸し出しをしてほしいと、区役所と交渉をはじめ、10月15日になって、ようやくふれあいセンターの運営について話し合いがもたれました。区役所の生活再建課長、福祉、保健部、地元婦人会や民生委員中心の給食サービスグループ、そして私たちボランティアが集まりました。生活再建課はボランティアへの鍵の貸し出しに難色を示しましたが、柔軟な対応を求めました。1週間後、暫定的に鍵が貸し出され、ふれあい喫茶が再開されました。その後、ボランティアを交えたふれあいセンター運営協議会をつくることになり、予算も執行されることになりました。



結局ふれあい喫茶は3回休みました。

長い長い4週間でした。

一番気にかかっていたおばちゃん、おっちゃんも4週間の間に生活のペースをすっかり崩していました。健康状態が悪化し、部屋にこもりがちになっていました。週1回の喫茶に顔を出すことが生活のペースメーカーになっていたのです。再び喫茶に足を運んでもらうのに3週間かかりました。

ふれあいセンターは今のところ、ふれあい喫茶のある水曜日と生活相談員が派遣される金曜日に開いています。住民間の難しい人間関係もあり、外部の人間が運営に参加する方が、かえってスムーズにいくというのも事実です。新多聞では、たまたま継続的に関わっているボランティアがいたから区との話し合いをもて、その結果センターが閉められずにすみしました。でも、そういう所ばかりではないと思います。

市はふれあいセンターをつくる時も「自治会がないと建設しない」という姿勢でした。本来、自治会は市の下請けではないはず。それにふれあいセンターは震災の復興事業として市の責任で運営され、住民のためになる場所のはず。押しつけではなく、さりげなく1人にさせない、いざという時の受け皿になる場。ふれあいセンターはそんな場所だと思います。

たった週1回のふれあい喫茶を楽しみに、それを生活のペースメーカーにして仮設住宅での生活を乗り切ろうとしている人たちがいます。新しい年、仮設住宅の住民はいつそう減ることでしょう。ふれあいセンターの役割はますます重要になってきます。

(グループ・アバウト)

情報コーナー

パイプイス(折り畳み式のイス) 約80脚あります

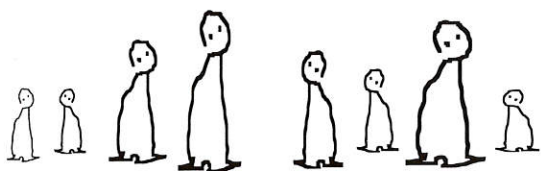
パイプイスは中古品、ちょっと傷がついたものから、けっこう新しいものまでいろいろあります。ご希望の方は仮設NGO事務局まで。

提言・提案千一ムから

12月12日、臨時国会会期末。この日、「災害被災者等支援法案」の継続審議が決まった。三宮、フェニックスプラザ前に歓声が響く。

今国会は「行政改革」中心に話し合いが行われ、あまり動きがなかった。というのも、この「行革」の他にも様々な審議事項（山一証券の件も含めて）があり、ほとんど前の通常国会からの進展はなかった。唯一行われたのは、異例の「勉強会」である。それは、法案審議の手続きには含まれないが、市民と議員が国会内において同じテーブルで意見を交換するというもの。市民主体の社会を今後考えていく上で非常に重要な「勉強会」である。

その動きとは別に自民党からの「基金案」というものがあつたが、これは結局この国会では提出されなかった。また、野党案（特措法）が新たに提出されるという動きもあり、この法案も継続審議となった。



12月初めから国会前での座り込みに連動して、三宮・フェニックスプラザ前でも座り込みが行われた。座り込み終了の日、つまり今国会終了にあたる12日、私は初めて「座り込み」に参加した。そこには常時20名以上の人々が参加しており、絶え間なく通り過ぎる人々の中に「公的援助法の実現を！！」という声がこだました。

ただ通り過ぎる人、立ち止まり垂れ幕を眺める人。様々な人が行き交うその通りは、この国を象徴していた。

午後3時半、一本の電話が入る。「災害被災者等支援法案」の継続審議が決まったという連絡。その瞬間、この国のまっただ中にいる自分に気づいた。何も関係ないかのように暮らしている日々を送る自分にとっては新鮮な驚きだった。確かにこの国は動いている、そう肌で感じた瞬間だった。

もう一度、この国について考えていきたい。自分の生活について、この被災地に住む人間として考えて行きたい。そう思った。

（仮設NGO事務局 鈴木隆太）

「公的支援必要」で一致

参院災特委 被災者対策 異例の勉強会

災害の被災者に生活再建資金を支給する法制度について意見を聞く参院災害対策特別委員会（浦田勝委員長）の勉強会が十日、参院議員会館内であり、市民団体が提案した「災害被災者等支援法案」などこれまで提案、検討されている四つの制度の当事者が初めて集まった。委員長主催でこうした会が開かれるのは異例で、各者とも災害被災者に何らかの公的支援制度が必要との認識で一致。浦田委員長も「基本になる法律を作らなければ」と次期通常国会での審議と制度の取りまとめに意欲をみせた。

説明した四者は、「災害被災者等支援法案」（市民立法案）を提案した「市民=議員立法実現推進本部」の小田実代表と田英夫参院議員（社民）、「被災者生活再建支援基金法案」を検討している柿沢弘治衆院議員（自民）、野党三党で「阪神大震災被災者支援法案」を提案史や赤羽一嘉衆院議員（新進）、自民党案の基になった「災害相互支援基金制度」を提案した全国知事会事務局ら約三十人。

浦田議員は「国会全体を通じて、このような会合は初めて」と意義を話し、小田代表は公的支援の必要性について理解が深まりつつあるとし、法案の審議入りを訴えた。

野党案でも、赤羽氏が「阪神で足りない部分を後押しする策が必要」と、被災地では三年を迎えてもさらに支援策が必要なことを強調。

自民案の取りまとめに当たっている柿沢氏は基金の資本金について「五年をめどに検討が加えられる」とした規定を入れたことで国が出資する余地を残したことを明らかにし、「財政当局は個人補償に当たると強い難色を示し、災害に対する救助は地方自治体の責任」と政府内に依然強い抵抗があることも説明した。参院災害対策特別委員会は今後、すでに提出されている市民立法案と野党案についての取り扱いを正式に決める。

（読売新聞 12月11日朝刊）

阪神・淡路から「人間の国へ」

～「災害被災者等支援法」の本格審議・実現を求めて～

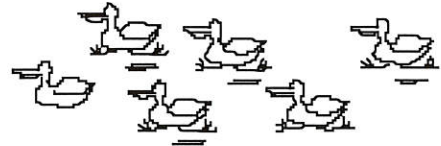
臨時国会で再び継続審議となった「災害被災者等支援法案」。今回はこの法案の成立を求めて、仮設NGOと同じ長田区御蔵通で活動が続けている「『公的援助法』実現ネットワーク」の佐々木康哲さんに、寄稿頂きました。

阪神大震災から4度目の冬を迎える。我々の事務所のある神戸市長田区の御蔵・菅原地区には震災前の住民は、まだ3割しか戻って来ていない。戻ってくる展望も限りなくゼロに近い。人の住まない市街地では、商売が成り立たず街の賑わいからほど遠い。賑わいのない街には人は集まらない。かつてこの下町を賑わせていた住民は、郊外のニュータウンに災害復興住宅として用意された住宅に移住していく。歩ける範囲にコンビニすらない自動車中心に設計された街へだ。仮設住宅で今も避難生活を送る人々は、もと居た街ではなく、こんな街への移住を迫られている。何かがおかしい。これが「人間の国」か？

復興のために、4兆円ともいわれる税金が使われた。壊れかけた建物を「超法規的措置」により公費で解体する事になった。しかし、少しの補修で住める様になる家屋へは「税金」は使われなかった。生活の基盤である住居を破壊し、更地にすることに使われた「税金」はあった。人々の生活を支える住居を守るための「税金」はなかった。これが「人間の国」か？

震災発生と同時に、日本と世界中から「義援金」が被災地に送られてきた。何よりも有り難く、心強い思いだった。プールされた「義援金」の一部が初めて被災者へ手渡されたのは数ヶ月も後のことで、大半は、1年後・2年以上後にやっと配分された。各地からの支援の想いは、長い間封じ込められ異常発酵し、被災者の不満の種にすらなってしまった。何かが違う。これは「人間の国」でのやり方か？

家も仕事場も全て失い、着の身着のまま避難生活を始めた時、知人に安否を知らせる電話代すら持ち出せなかった人達。進学期の子供達の受験料や、入学金を泣く泣く生活の為に取り崩した人達。補修すればまだまだ住める家を、「葬式代だけは残さねば」と公費解体せざるをえなかった人達。店舗や工場を失い、そこで働き、返済できるはずの借財の清



算を生命保険に委ねざるをえなかった人達。この国で起こった事だ。そしてこの国で繰り返される事だ。これが「人間の国」だろうか？

被災者に対して、緊急の避難場所、緊急の毛布、緊急の食事……を用意するシステムはこの国にある。緊急の「お金」は？ 私たち阪神・淡路大震災を体験するまでこんな事に思いを巡らせる事はなかった。油断していた。無知だった。しかし、確かに気づいた。私たち市民は「無かったら作る」という所から事を始めた。

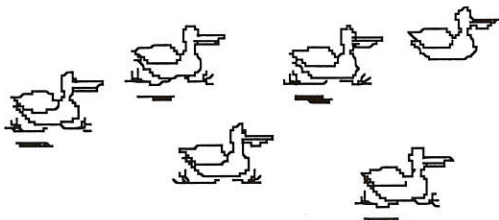
自然災害の被災者の破壊された「生活基盤」を回復するために「支援金」を、私たちの税金から被災者へ緊急に届けるため（公的援助）の「法律」を作る。市民が「発議」した「災害被災者等支援法」は、その趣旨に賛同を寄せる超党派の国会議員との共同作業で「市民＝議員立法」として参議院の災害対策特別委員会に付託されている。

民主主義のこの国の国会で、議員立法として提出されている法律は、非常に少ないと聞く。国会議員は法律を作るのが仕事だったはず。学校ではそういうふうに教えてもらった。市民が「発議」した法案が国会で審議されることは前代未聞らしい。誰の為に法律は作られてきたのか？ 立法への過程を歩む中で私たちの「常識」はあらゆる所で驚きに出くわす。極めつけの驚きは、国会に上程されている法案を国会は審議しないのだ。97年5月に上程された法案は、具体的な審議は全く成されずに現在に至っている。これが「人間の国」か！

私たち市民が「発議」した法案であれ何であれ、この国に公的援助に見舞われる人々に阪神・淡路大震災の被災者とのな時苦しみを繰り返させてはならない。災害多発のこの国で安心して暮らすために、「公的援助」のシステムを一日でも早く実現するために、国会での本格的審議を。

皆で「人間の国」への扉を開けに行きましょう。

（「公的援助法」実現ネットワーク 佐々木康哲）



『震災がつなぐ全国ネットワーク』

が、出来ました！！



阪神・淡路大震災の発生からもうすぐ3年。震災を機に注目を集めたボランティア活動も、被災地内外で様々な広がりをみてきました。同時に震災での経験～うまくいったことも、そうでなかったことも含めて～や、各々のグループの特徴を活かした活動を探っていこう。そんな想いから昨年の11月、今年の5月と全国各地のグループが集まって準備会を重ね、先月11月はじめ、いよいよ「震災がつなぐ全国ネットワーク」を旗揚げしました。

「全国ネットワーク」といっても、今のところ310数団体の小さな集まりです。全国でいろいろなネットワークが誕生している中、このネットワークの特徴は“草の根のつながり”を目指すことです。

災害ボランティアというと、防災の専門家や特殊技能の中だけで考えられがちなもの。でも多くの市民も「何もできないけど、何かしたいという想い」を持っています。私たちのネットワークでは、この想いという原点を大切に、その想いがいかにつながり、いかに具体的な活動にしていけるのかを、緩やかな関わり合いの中で協働していこうというものです。

この3年弱という月日の間、全国キャラバンや、各地でのイベントや集まりを通じて、いろんな顔の見える関係が生まれました。気がついたらつながっていた仲間たちが、知恵を絞って考え出した新しいネットワーク。どうぞ御一緒に。全国に仲間を増やしていきましょう。

▼設立の趣旨

阪神・淡路大震災を機にいよいよ気づかされた共生型社会の大切さを実践に移す作業として、全国に点在する様々な人々の、様々な違いを認め合いながら、過去の災害が教えた今日的課題を共に学び、共に提言し、あるいは今後の緊急時には共に協同することを基本にします。しかしその関わり具合は各個人や各団体により全く自由に選択できる緩やかなネットワークとします。一方、良いことは大いに褒め合い、悪いことは十分に反省し合う素直な関係を築き合いながらも、私たちが人としてこれからも「災害支援」の在り方に対して真摯に向き合う仲間の拡大への試みを始めるものとします。

▼目的

- (1) 国内での災害時において、このネットワークが最大限活かされた支援活動を行います。
- (2) 海外での災害時において、このネットワークが最低限活かされた支援活動を行います。
- (3) 阪神・淡路大震災被災地への支援活動を継続するために、このネットワークを活用します。

▼具体的活動

- (1) 災害を教訓とした検証作業を行います。テーマは「ひと」「モノ」「金」「情報」とし、小冊子発刊を目標に順次進めていきます。
- (2) 情報交換会、研修会、学習会などを行います。
- (3) その他、目的を達成するための事業を行います。

▼役員・事務局

ネットワークという性質上、全員が主人公の原則は貫くものとしますが、組織を運営するための役割として、以下の役員を置きます。

【代表】 村井雅清(仮設NGO)

【事務局長】 石井布紀子(プロジェクト結ぶ)

【事務局次長】 栗田暢之(震災から学ぶボランティアネットの会)

【幹事】 吉田公男(ハートネットふくしま)

矢野正広(とちぎボランティア情報ネットワーク)

市川斉(曹洞宗国際ボランティア会)

間宮基文(震災から学ぶボランティアネットの会)

山本亜紀子(結～ふくおか～)

【監事】 (未定)

【会計】 福田和昭(仮設NGO)

また、事務局は仮設NGO内に置きます。



全国ネットワークの初仕事として、年明けの1月に、災害時の救援物資についての検証・提言をまとめた「物資が来たぞう!! 考えたぞう!!」を発刊します。また「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」の協働企画として、1月16日の13:00より、神戸・三宮の市立青少年会館にて「大震災を検証する～そこから生まれるネットワーク～」ワークショップが行われます。

イベント情報

EVEN Information

年末年始ふれあい祭り



1997年12月27日(土)
餅つき大会(長田区五番町の金楽寺にて)

1997年12月28日(日)
エレクトーン演奏会・手品・人形劇
身空ひばりそっくりショー(13:00~14:00)
作って食べる本場水ギョーサ講習会
綿菓子・ポップコーン・ちびっ子コーナーなど

1997年12月31日(水)~1998年1月1日(木)
大晦日餅つき大会(11:00~15:00)
ぜんざい炊き出し
綿菓子・ポップコーン・ちびっ子コーナーなど

1998年1月1日(水)~1月4日(日)
お雑煮炊き出し
長田神社初詣ツアー(11:00~, 13:00~, 15:00~)
お年玉めいぐるみプレゼント/お米1キロ100円

場所: 共生・共創センター「もやい」
主催: ふれあい祭実行委員会
問い合わせ: 「ひまわりの会」事務局内 藤井・河上
TEL: 078-512-3703

地震年越しまつり

憩いの場・恒例フラワーロード大パレード・広場1000キロ
のもちつき会(無料配布)・被災者交流・太鼓演奏・音楽・舞
台・激安屋台いろいろ・よさず相談コーナーほか

日時: 1997年12月23日(火・祝) 11:00~15:00
場所: 神戸市役所前
問い合わせ: 地震まつり実行委員会(本町公園内)
TEL: 078-651-0259 FAX: 078-682-9045



アニメーション映画

「地球が動いた日」上演会

阪神・淡路大震災のなかから、明日を見つめて成長する
子供たちの姿を描いたアニメーション映画です。収益の一
部は仮設NGO、神戸仮設住宅ネットワークに寄付されます。

1997年12月26日(金)・27日(土)
江戸東京博物館1Fホール(両国駅徒歩2分)
1998年1月10日(土)
有楽町朝日ホール(有楽町駅徒歩2分)
1998年1月17日(土)
新宿・朝日生命ホール(新宿駅西口徒歩4分)

上映時間: 全会場とも①10:30~②12:30~③14:30~
当日料金: 一般1,800円、子ども1,200円
主催: 忘れないで神戸・地球が動いた日を成功させる会
問い合わせ: 共同映画社
TEL: 03-3463-8245



神戸発ぼちぼち村まつり



調布駅南口広場にて模擬店・写真パネル・支援グッズ販売、
バザーなど予定。また「たづくり」2F「くすのきホール」にて
アニメ映画「地球が動いた日」の上映会を行います。

日時: 1998年1月11日(日) 11:00~15:00
場所: 調布駅南口広場(東京都調布市)
主催: 神戸発ぼちぼち村まつり実行委員会
問い合わせ: 自然に学ぶくじらや(Tel/Fax: 0423-36-2909)
みさとや(Tel: 0424-87-1714 Fax: 0424-81-9770)
ちびくろ関東ネット 濱田(040-201-5444)



防災ギャザリング'98 from かながわ

「防災は友だちづくりから」をメインテーマに、さまざま
な人が、さまざまな立場で出会い、「防災」を一つの切
り口として、互いに学び・互いから発見していく場と集い
です。

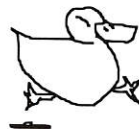
日時: 1998年1月11日(日)~1月25日(日)
場所: かながわ県民活動サポートセンター(主会場)
横浜駅西口徒歩5分
主催: 防災ギャザリング'98 from かながわ 実行委員会
問い合わせ:
かながわ県民活動サポートセンター内レターケース217
〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
FAX: 045-312-1862(「レターケース217」と明記のこと)

平島謙二さん

ギターコンサート

震災から3年目を迎えて、神戸より来福される平島謙二さ
んのギターコンサートを行います。

日時: 1998年1月18日(日) 13:30開場 14:00開演
場所: 赤坂けやき通り レヴエ(福岡市中央区)
入場: 無料(カンパ歓迎)
ワンドリッパ¥500、ケーセット¥1000(被災者の方々は無料)
主催: りんりん福岡、結〜ふくおか〜
問い合わせ: りんりん福岡(向田: 092-865-5865)
結〜ふくおか〜(天満: 092-847-0132)
(山本: 092-921-5664)



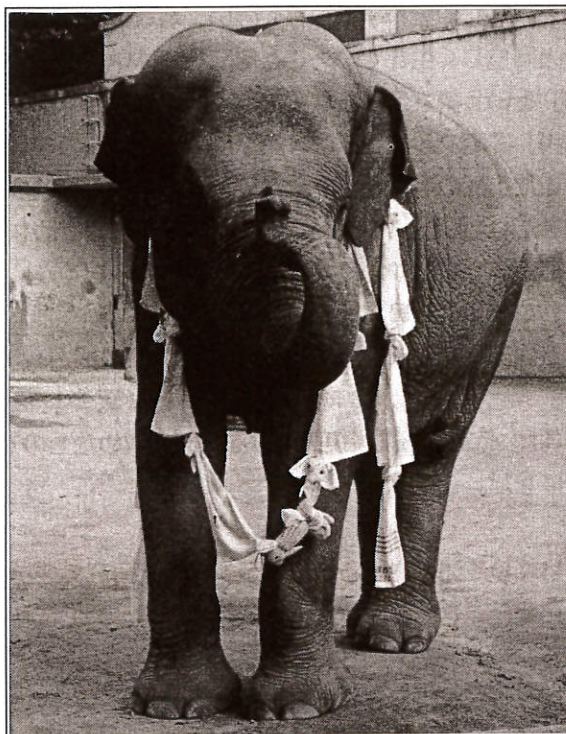
震災三年目の仮設住宅 小林明日香写真展

震災から3年目を迎えた仮設住宅で撮影した写真です。

日時: 1998年1月27日(火)~2月4日(水)
場所: 新宿コニカプラザ 東ギャラリー
問い合わせ: 新宿コニカプラザ 東ギャラリー
TEL: 03-3225-5001

今年も一年間ありがとうございました
来るべき1998年が良い年でありますように!!

自ら描こう“明日の暮らし”



1998. 1. 15. (祝) 13:00~19:00 神戸国際展示場2号館
 1. 16. (金) 9:00~18:15 神戸勤労会館・青少年会館
 1. 17. (土) 9:00~12:00 西山記念会館

1月15日

13:00~13:30 開会式

13:30~16:00 オープニングシンポジウム

コーディネーター：西村秀俊(前アエラ編集長)

*第一部~主催団体代表による

シンポジスト

小室豊充(兵庫県ボランティア協会会長)

増田大成(コープこうべ福組合長理事)

芹田健太郎(防災フォーラム実行委員長)

第二部~現場の活動者による

シンポジスト

高橋澄子(ひょうごナーシング研究センター)

栗田暢之(震災から学ぶボランティアネットの会)

高橋卓志(日本チエルノブイリ連帯基金)

17:00~19:00 歓迎交流会(有料)

1月16日

9:00~12:00 フィールドワーク

13:30~17:00 ワークショップ

*「復興計画」のワークショップ

しごと・働く場、教育・文化、医療・保健・

福祉、住宅の再建、まちの再建の復興計画

*協働企画のワークショップ

15:30~18:30 フォーラム特別企画
 “人道支援とは?”

コーディネーター：草地賢一

(サハリン・中国雲南・中国南部洪水・カン

ボジア・インド・北朝鮮災害支援実行委員会)

シンポジスト(予定):

村井雅清・日比野純一・林同春・山口徹

泰辰也・未定(コープこうべで調整中)

コメンテーター：芹田健一郎

(総理府国際協力本部事務局「人道救援活動

有識者懇談会」座長)

1月17日

10:30~12:00 合同報告会/閉会式

※ 追悼の催し

1月16日屋外企画 (勤労会館前広場)

「エスニック広場」

NGO外国人救援ネットが、被災地に住む様々な
 国の人によるパサールを企画中です。

1月16日屋内企画 (青少年会館5・6階)

「仕事づくりの現状」

「震災活動記録の展示」

「まけないぞう」を中心とした仕事づくりに
 関する展示、震災発生からこれまでとこれから
 を見る展示を行います。

原本

第3回市民とNGOの「防災」国際フォーラムに向けて 自ら描こう“明日の暮らし”

大震災からまもなく3年目のあの日がやってくる。

この間、被災者と被災地は人々の生命と財産を守ろうとしない国の姿勢に怒りとむなしさを持ち続けてきた。

6400人の犠牲者と、170人を超す孤独死で亡くなった人の無念がこの地に積み重なっている。

表通りの復興は、そのまま下町の雨ざらしにつながり、港湾や道路などの復旧は暮らしの基盤となる民間の家屋や店舗の回復不能と対比できる。かつて人々が生き生きと交流していた長屋のあとは、いまもお雑草の間からむきだしとなったコンクリートの基礎がのぞいている。

こうした困難な状況からも多くの被災者がこぶしを強く握りしめながら生活を立て直し続けている。

この間、私たちが学んだことは、1人ひとりが市民として社会づくりに参画する市民社会を築いていかなければいけないということだった。そしてその点では、私たち自身も大いに反省しなければならない。

不思議なことに社会の仕組みが巨大になるに従って、あすへの希望や期待が小さくなってはいないだろうか。発想が内向きになり隣人と手をつなぐのをわずらわしく思い、地域コミュニティから一歩ひき、仕事を機械やシステムに委ねてしまつて人間らしく生きていくことを忘れてはいなかっただろうか。「こんなまちに住みたい」「こんなまちにしたい」という夢さえ語らなくなっていたのではないか。

第3回市民とNGOの「防災」国際フォーラムは、第2回フォーラムの申し合わせにより、被災のあるなしにかかわらず震災体験を共有した市民の手によって、自分たちの人生設計とまちの姿を重ね合わせながら復興計画をつくりあげたい。中身をだれもが記憶していないような復興計画ではなくて、市民のすべてがひとつの言葉、ひとつの文章であっても、いつも口ずさみたくなるようなやさしくて、温かさにもちた内容の計画を「市民がつくる復興計画」として参加者全員で策定していきたい。

こうした視点からフォーラムはテーマを「自ら描こう“明日の暮らし”」と定め、多くの人々のあすへの意欲と知恵を結集したい。

「市民がつくる復興計画」は、必ずしも震災復興だけを視野に収めたものでなく、21世紀社会をにらんだ長期的な視点もそこに加わるはずだ。

第3回フォーラムは時を同じくして開催される全国ボランティア研究集会と全国生協ボランティア活動交流集会に参加する多くの新しい仲間とできうる限り連携し、共に考え、共に行動し、同心円としての輪をいつそう広げていきたいと願っている。

あわせて被災者や支援者とスクラムを組んできた全国各地の仲間とも、さらに絆をかためていきたい。

もとより第3回目もこれまでと同様に主役は被災者である。

フォーラムのテーマに賛同する多くの人々が、それぞれの持ち味を生かしながら、それぞれのスタイルで参加することを心から歓迎する。

1997年10月

第3回市民とNGOの「防災」国際フォーラム
組織委員長 高村 勳
(生活協同組合コープこうべ名管理事長顧問)

◎開催場所

1月15日(祝)：神戸国際展示場2号館

〒650 神戸市中央区港島中町6-11-1

TEL 078-302-1020 FAX 078-302-1870

1月16日(金)：神戸勤労会館・神戸青少年会館

〒651 神戸市中央区雲井通5-1-2

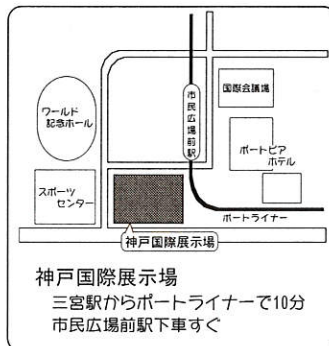
TEL 078-232-1881 FAX 078-232-1876
(勤労会館)

TEL 078-232-4455 (青少年会館)

1月17日(土)：西山記念会館

〒651 神戸市中央区脇浜町3-4-16

TEL 078-221-1746 FAX 078-232-5231



市民とNGOの「防災」国際フォーラム事務局

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL:078-578-6921 FAX:078-578-6923